

## セネガルにおけるウォロフ化の進行と 場面による言語選択：Ⅶ. ファティック

### Wolofization and choice of languages in different situations in Senegal: VII. FATICK

砂野幸稔

#### 0. ファティック

ファティックは、セネガル西部海岸部のガンビア国境の北に位置するファティック地方の地方行政首都であり、ファティック県の県庁所在地である。ダカルからカオラックを経て、ガンビアを縦断してジガンショールに至る国道上に位置し、海岸部のシネ・サルーム国立公園の入り口にもあたるが、現在では海岸部デルタで生産される塩の集積、加工を除けば、めぼしい産業は見あたらない。

1988年の国勢調査の結果によれば、ファティック都市部の人口は1万8416人となっているが<sup>(1)</sup>、The World Gazetteerの推定によれば、1997年時点での人口は約2万2500人である<sup>(2)</sup>。1998年夏の調査時の人口もほぼそれに近いものと考えられる。ファティック県の都市化率は9.7%と低く<sup>(3)</sup>、農村部からの人口流入による人口増加はある程度あるものの、むしろダカルや近隣のカオラックなどの大都市への流出の通過点となっていると考えられる。

ファティック地方はセネガル第二の民族であるセレール人がもっとも多く住む地方であるが、なかでもファティック県は、下に示すように、住民の9割近くがセレール人であり、セレール人の比率がもっとも高い県である。以下に1988年の国勢調査の報告書が、ファティック県を含むファティック地方各県および地方全体についてあげる数値を示す<sup>(4)</sup>。因みに、報告書があげるファティック地方全体の人口は50万6484人、ファティック県の人口は20万7856人である<sup>(5)</sup>。

## 〈ファティック地方各県の民族別人口構成〉

	ファティック県	フンジュニユ県	ゴサス県	地方全体
ウォロフ人	6.1%	39.1%	52.8%	29.9%
フルベ人	5.1%	9.0%	14.6%	9.2%
セレール人	86.0%	37.7%	29.8%	55.1%
マンディンカ人	1.3%	9.3%	1.1%	3.4%
その他	1.5%	4.9%	1.7%	2.4%

なお、この報告書では各県の都市部の民族別人口比もあげられている。以下にその数値を示す。他の都市の場合と同様、ファティックでも都市部では県内では圧倒的多数派であるセレール人の比率が下がり、とりわけウォロフ人の比率が高くなっている。

## 〈ファティック県都市部の民族別人口構成〉

ウォロフ人	23.1%
フルベ人	8.8%
セレール人	55.5%
マンディンカ人	2.8%
その他	9.8%

言語については、1988年の国勢調査の報告書であげられている数値に基づいてファティック都市部における各言語の第一言語、第二言語としての話者の比率を推計すると以下のような数値が得られる<sup>(6)</sup>。

## 〈ファティック県都市部の第一言語、第二言語としての各言語の話者比率の推計値〉

	第一言語	第二言語	計
ウォロフ語	43.5%	43.7%	87.2%
フルフルデ語	6.3%	1.0%	7.3%
セレール語	43.1%	5.0%	48.1%
マンディンカ語	3.5%	0.4%	3.9%
その他	5.8%	-	5.8%+

ファティック都市部においても、他の都市の場合と同様、ウォロフ語の話者数が、第一言語としての話者数ですでに県の多数派のセレール語をしのぎ、

合計でははるかにセレール語を圧倒していることが、この数値からもはっきりと見て取れる。

## 1. 調査結果の分析

調査は1998年7月29日から31日にかけて、ファティック市街6地区のうち、ロガンデメ、ンドゥク、プルガ、ンジャイ・ンジャイⅠ、ンジャイ・ンジャイⅡ、ダレルの6地区で、各地区の地区長に地区内の民族構成をおおむね反映する形で十数家族を推薦してもらったうえで戸別訪問を行い、計269人の住民を対象に行った。ファティックの中心部を構成するロガンデメ、ンドゥク、プルガの3地区はウォロフ人を中心とする移入者が多く混住が進んでいるが、周辺部に位置するンジャイ・ンジャイ2地区とダレルはセレール人が多数を占める。

調査対象者の年齢、職業、性別の構成は以下の通りである。

### ①年齢および性別

	10-15	16-25	26-35	36-45	46-55	56-65	66-	計
男性	5名	43名	8名	17名	11名	5名	8名	97名
女性	12名	59名	36名	32名	22名	7名	4名	172名
計	17名	102名	44名	49名	33名	12名	12名	269名

### ②職業

公務員、会社員等給与生活者	19名
生徒、学生	71名
商人、修理工、労務者等	59名
無職、主婦	120名

50代前半以下の活動年齢の男性の数が少ないのは、他の地方都市の場合と同様である。ここでも、活動年齢層の男性が、ダカールなどへの出稼ぎなどのために長期不在の家庭が多かったためであると考えられる。1988年の国勢調査の報告書のうち、ファティック地方の報告書では、とくに住民の各年齢層の「男性率 (masculinité)」が示されているが、ファティック地方全体、農村部、都市部のそれぞれの人口の半数を100とした場合の「男性率」は、次のようになっている<sup>(7)</sup>。活動年齢の男性が、とりわけ都市部において多数不在化していることはこの数字からも明らかである。

ファティック地方全体	85.6%
ファティック地方農村部	87.1%
ファティック地方都市部	73.9%

なお、本稿での分析は、ファティック都市部全体の調査結果の総計を用いているが、参考のために、調査結果の集計表をファティック都市部全体と地区別に分けて、本稿の末尾に示した。

#### (1) 父母の第一言語と本人の第一言語

父母の第一言語と本人の第一言語についての質問、および民族についての質問への回答の言語(民族)別内訳は以下の通りである。左から各言語について父の第一言語と答えた数、次いで母の第一言語と答えた数、回答者本人の第一言語と答えた数を示し、父母の合計を2で割った数と本人の数を比較して増減を示した。全体率は各言語を第一言語とする本人の数の全体に対する割合である。最後に回答者本人の民族的出自の割合を示した。全体率と民族の割合については、比較のためにカッコ内に第一言語については上記の88年国勢調査の結果からの推計、民族については報告書のファティック県都市部の比率を示している。

なお、国勢調査の報告書ではジョラ人、ソニンケ人は「その他」に分類されており、数値はあげられていないが、ここではジョラ人、ソニンケ人についても数値をあげる。

民族構成および第一言語話者数をカッコ内の数字と比較すると、われわれの調査では、民族としてはウォロフ人の比率がやや低いのに対してフルベ人の比率がかなり高くなっている。また、「その他」の分類については、ジョラ人、ソニンケ人の数値を合わせてもかなり低いものとなっている。しかし、少なくとも最も重要な民族であるウォロフ人とセレル人については、われわれの調査対象者の構成が、おおむね1988年国勢調査のファティック都市部の数値と一致し、ほぼ現実を反映するものとなっていることがわかる。

	父	母	本人	増減	全体率(88県都市部)	民族(88県都市部)
ウォロフ語	57	55	103	+81%	38.3%(43.5%)	19.0%(23.1%)
フルフルデ語	49	46	27	-43%	10.0%(6.3%)	18.2%(8.8%)
セレル語	143	146	131	-9%	48.7%(43.1%)	55.8%(55.5%)

マンディンカ語	4	8	2	-67%	0.7%( 3.5%)	2.2%( 2.8%)
ジョラ語	10	6	5	-38%	1.9%( - )	3.7%( - )
ソニンケ語	2	0	0	-∞	0.0%( - )	0.0%( - )
その他	4	8	1	-83%	0.4%( 5.8%)	1.1%( 9.8%)
フランス語	0	0	0	± 0	0.0%( - )	0.0%( - )

すでに結果を分析した6都市と同様<sup>(8)</sup>、ファティックにおいても、ウォロフ語第一言語話者の増加がはっきりと認められる。強いウォロフ化の圧力が働いていることはここでも歴然としている。

父の第一言語がウォロフ語であるとする者57名、母の第一言語がウォロフ語であるとする者55名に対して、自らの第一言語がウォロフ語であるとする者は103名であり、一世代の間にウォロフ語を第一言語とする者の数が倍近い増加を示している。

それに対して、ファティック県の圧倒的多数派であり、ファティック都市部においても半数以上を占める多数派であるセレール語の第一言語話者は、父143名、母146名に対して131名と、一世代の間に約1割の減少を示している。地元の多数派言語が、都市部においてその第一言語話者の数を減らす傾向は、ジガンショールのジョラ語、ポドールのフルフルデ語などの場合と共通している。第一言語としての話者の比率が民族の比率を下回るのも同様である。

他方、ジガンショールやタンバクンダで、ウォロフ語だけでなく地元の「超民族語」であるマンディンカ語やクレオール語の話者数が増加し、バケルで都市部の多数派言語であるソニンケ語の話者数が増加していたのとは異なり、ファティックではウォロフ語以外の言語はすべて、その第一言語話者の数を減らしている。ファティックではウォロフ語のみが、他のすべての言語に対して一方的に同化圧力をおよぼしているのである。

なお、ファティックでは、フランス語を第一言語とするという回答はなかった。

## (2) ファティックにおける多言語使用

使用言語についての質問への回答の全体比の言語別内訳を以下に示す。百分比は左から順に不自由なく話せると答えた者、ある程度話せると答えた者、少しなら話せると答えた者の比率であり、次にその総計の比率を示した。比較のために、その右にそれぞれの言語の第一言語話者の比率と民族の比率を

示した。「複数言語率」というのは、「話せる」言語の回答総数を回答者数で割ったものである。

〈話せる言語〉

	不自由なく	ある程度	少し	計	第一言語話者	民族
ウォロフ語	83.6%	7.1%	8.9%	99.6%	38.3%	19.0%
フルフルデ語	11.2%	2.2%	11.5%	24.9%	10.0%	18.2%
セレール語	57.2%	4.5%	9.3%	71.0%	48.7%	55.8%
マンディンカ語	3.3%	0.0%	1.5%	4.8%	0.7%	2.2%
ジョラ語	2.6%	0.7%	1.9%	5.2%	1.9%	3.7%
ソニンケ語	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%
その他	0.7%	0.4%	1.1%	2.2%	0.4%	1.1%
フランス語	41.3%	13.0%	16.4%	70.6%	0.0%	0.0%

合計 「不自由なく」「不自由なく+ある程度」

\*複数言語率(フランス語以外) : 2.081      1.590      1.739

ファティックにおいて「ウォロフ語をまったく理解しない」と答えたのは1名のみで、他はすべての人がある程度はウォロフ語を理解する。「不自由なく」話せる人の比率83.6%も、ダカール(90.4%)、ジガンショール(88.2%)に次いで高く、ファティックでは、ウォロフ語がほぼ完全に共通語として共有されていることがわかる。

他方、セレール語を理解する人も71.0%と全回答者の7割を超え、第一言語話者の比率(48.7%)だけでなく、民族の比率(55.8%)も大きく上回っている。明白なウォロフ化の進行にもかかわらず、セレール人以外の人々は多数派の隣人の言語を学び話そうとしているのである。

フルフルデ語についても、第一言語話者(10.0%)の倍以上の人(24.9%)が、少なくとも少しはフルフルデ語を理解すると答えている。「不自由なく」話せる人の比率は第一言語話者の比率とほぼ一致するが、理解する人の合計は民族の比率を上回っている。

フランス語以外の「複数言語率」を見ると、2.081という数値は、ポドール(2.090)とほぼ同じで、ジガンショール(3.671)、バケル(3.348)、タンバクンダ(2.747)のような多言語都市よりは低いが、ほぼウォロフ語一色の世界に近いダカール(1.571)、サンルイ(1.469)は大きく上回る。フラン

ス語以外の複数言語率がほぼ同じであることに見られるように、ウォロフ語と地元多数派言語が併存するという意味ではファティックはポドールの場合と類似しているが、ポドールではフルフルデ語もほぼ全住民に理解され、ウォロフ語と拮抗していたのに対して、ファティックでは、セレール語は大きな存在感を示しながらも、明らかにウォロフ語に圧倒されている。

フランス語が「話せる」と答えた人は、かなり実際より過大な数値が表れていると思われるジガンショールの84.8%は下回るものの、それ以外の都市では最も比率の高かったダカール(68.5%)をも上回っている。ポドールやタンバクンダの場合と同様、調査対象者の三分の二が就学率もフランス語識字率も男性を下回る女性であったにもかかわらず(ダカールでは男女ほぼ同数、ジガンショールでは男性の比率の方が高かった)、こうした高い数値が表れた理由のひとつは相対的に高い就学率であると思われるが<sup>(9)</sup>、「不自由なく」話せる人の比率41.3%はダカール(49.0%)をかなり下回り、むしろそちらの方が実態を反映している可能性もある。

第一言語別に、フランス語を除いた「話せる」言語数と日常生活で実際に「使う」言語数を調べてみると、次のような表が得られる。

<第一言語別の話せる言語数>

第一言語	言語数						平均言語数	*ウォロフ語のみ
	1	2	3	4	5	6		
ウォロフ語	45*	38	17	1	2		1.806	*45
フルフルデ語	1*	16	7	1	1	1	2.556	*1
セレール語	1	103	23	3	1		2.237	
マンディンカ語		2					2.000	
ジョラ語		3		2			2.800	
その他			1				3.000	
計	47*	162	48	7	4	1	2.115	*46

<第一言語別の使用言語数>

第一言語	言語数					平均言語数	*ウォロフ語のみ
	1	2	3	4	5		
ウォロフ語	75	22	4	1	1	1.359	75
フルフルデ語	7*	14	6			1.963	*6
セレール語	8*	117	5	1		1.992	*5
マンディンカ語		2				2.000	
ジョラ語		4	1			2.200	
その他	1*					1.000	*1
計	91*	159	16	2	1	1.747	*87

備考欄の\*印の数は、フランス語以外は1言語しか話せない、あるいは使用しないと答えた人で、第一言語がウォロフ語以外であると答えながら、実際にはウォロフ語しか話せない、あるいは使用しない人の数である。フルフルデ語を第一言語とし、1言語しか話せないと答えた人は、第一言語であるはずのフルフルデ語は話せず、ウォロフ語だけを話す人である。使用言語についても、フルフルデ語を第一言語とし、1言語しか使用しない人7名のうち6名は、実はウォロフ語しか使用していない。セレール語を第一言語とし、1言語しか使用しない人8名のなかでも、うち5名は実はウォロフ語しか使っていない。

全体で見ると、フランス語以外は1言語しか話せない人47名のうち46人がウォロフ語しか話せない人で、また使用言語数についても、フランス語以外は1言語しか使用しない人91名のうち87名がウォロフ語しか使用しない人であり、とくに使用言語については、ファティックでは調査対象者の3人に1人が日常はウォロフ語しか使用していない。

使用言語数についての複数言語率を見ると、1.747という数値は、全体の平均使用言語数がほぼ1言語に近いダカール(1.330)、サンルイ(1.212)よりも、ほぼ2言語(1.82)が使用されているポドールに近いが、9割以上がウォロフ語とフルフルデ語の2言語を話し、4人に3人が常時2言語以上を使用する2言語共存の社会であるポドールと異なり、全体の3人に1人、ウォロフ語を第一言語とする人の4人に3人が、日常はウォロフ語だけを使用している。

ファティックではウォロフ語とセレール語が共存しているとはいえ、ポドールよりもはるかにウォロフ語の優位が明確に表れているのである。

### (3) 場面による言語使用

それぞれの場面でどの言語を使うか、という質問に対する回答を表にまとめると以下ようになる。同じ場面でも相手や場合によって異なった言語を用いる場合には、使用する言語すべてをあげてもらった。それぞれの項目の下に各項目に対する回答数をあげてあるが、これは「その様な場面に遭遇しない」と答えた人々を除いた数であり、比率は回答数に対する比率である。比較のために第一言語話者、民族、およびそれぞれの言語を「不自由なく」話せると答えた人の比率をあげておく。さらに、最下段には各場面の複数言語使用率を示し、ダカールとポドールの各場面の複数言語使用率を比較のために示した。



(回答数)	家庭 (269)	近隣 (269)	市場 (267)	役所 (262)	同僚/敬友 (226)	上司/先生 (150)	第一言語話者	民族	不自由なく
ウォロフ語	56.5%	77.7%	90.6%	81.3%	82.3%	33.3%	38.3%	19.0%	83.6%
フルフル語	8.2%	5.6%	5.6%	2.2%	6.2%	2.0%	10.0%	18.2%	11.2%
セレール語	42.4%	40.1%	36.0%	15.6%	28.3%	7.3%	48.7%	55.8%	57.2%
マンディンカ語	0.4%	0.0%	0.7%	0.0%	0.4%	0.0%	0.7%	2.2%	3.3%
ジョラ語	2.2%	0.4%	1.1%	0.4%	2.7%	0.0%	1.9%	3.7%	2.6%
その他	0.4%	0.4%	0.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.4%	1.1%	1.1%
フランス語	3.7%	4.1%	2.2%	43.9%	35.4%	66.7%	0.0%	0.0%	41.3%
複数言語率	1.138	1.283	1.366	1.434	1.553	1.093			
カール複数言語率	1.227	1.155	1.067	1.264	1.324	1.265			
ボドール複数言語率	1.220	1.559	1.672	1.614	1.690	1.318			

以下、場面別に見ていこう。

### ①家庭で話す言語

ファティックにおいても、ウォロフ語の家庭内への浸透は顕著である、民族としては2割弱、第一言語話者の割合でも4割に満たないにもかかわらず、半数以上の人々が家庭内でウォロフ語を用いている。それに対してフルフルデ語、セレール語については、民族の比率だけでなく、すでにそれより低い数値となっている第一言語話者の比率をもかなり下回る人々しか、家庭内でも用いていない。このことは、ファティックにおいても、次の世代におけるウォロフ語第一言語話者の比率がさらに増加する可能性が高いことを示している。

とくに目を引くのは家庭内の複数言語率の低さである。1.138という数値は、調査した諸都市のうちで最も家庭内の複数言語率が低かったサンルイ(1.177)をさえ下回る。サンルイではウォロフ語第一言語話者が8割に近いことがその第一の理由だったが、ファティックでは、第一言語話者数と比較して減っているとはいえ家庭内でセレール語を用いる家庭は4割を超え、そうした家庭では、かなり強固にウォロフ語の浸透が阻まれていると考えられる。

ウォロフ人をはじめとする他民族との混住の進んでいる地区では、セレー

ル人もほぼウォロフ化しているのに対して、ンジャイ・ンジャイ地区などのセレール人が圧倒的多数を占める地区では、まだウォロフ化の圧力が家庭内にまでは及んでいないのである。

フランス語を家庭内で用いる人の割合は、ポドール (1.7%)、バケル (0.5%) は上回るが、ダカール (10.3%)、ジガンショール (13.0%)、サンライ (8.7%)、タンバクンダ (7.1%) のどれをも大きく下回る。ファティックでは、フランス語の家庭内への浸透はごく一部に限られている。

### ②近隣とのつきあいで話す言語

家を一步出るとウォロフ語の使用比率が跳ね上がるのは他のすべての都市と共通している。家庭内ではウォロフ語を用いない人も、その半数が家の外ではウォロフ語を用いるようになるのである。

しかし2割以上が近隣とのつきあいでもウォロフ語を用いておらず、また、家庭内でセレール語を用いている人とほぼ同じ割合の人が、近隣とのつきあいでもセレール語を用いている。複数言語率は家庭内よりは高いが、それでも低い数値にとどまっている。

セレール人が圧倒的な多数を占めるンジャイ・ンジャイ地区などでは、地区内の日常生活がほぼセレール語だけで行われていることが、こうした数字に表れていると考えられる。他方、近隣に異なった言語を用いる人々がいるところでは、必然的にウォロフ語が共通語として登場するのである。

また、フルフルデ語も、第一言語話者の半数以上が近隣とのつきあいでも使い続けている。フルベ人も、ダレル地区やブルガ地区で複数家族がまとまって暮らしている区画があり、こうしたところでは近隣でもフルフルデ語が使われているのである。

家庭内でのフランス語使用者の比率がファティックよりさらに低いポドールとバケルでは、近隣とのつきあいではフランス語の使用比率が大幅に増えていたが (ポドールでは1.7%に対して8.5%、バケルでは0.5%に対して4.8%)、ファティックでは、家庭内でフランス語を用いる人よりわずかに多い4.1%にとどまっている。いずれにしろ、フランス語は近隣とのつきあいでも、用いる人はごく一部に限られているのである。

### ③市場で使う言語

ファティックでも、市場においてもっともよく用いられる言語はウォロフ語である。ここでも「不自由なく」話せる人の比率を大きく上回る9割以上の人が、市場ではウォロフ語を用いると答えている。ウォロフ語が少しでも話せれば、大多数のひとが市場ではウォロフ語を用いるのである。

セレール語は、家庭内、近隣よりやや比率が下がるが、それでも4割近い人が市場でもセレール語を用いると答えている。また、市場においてもウォロフ語をまったく用いない人は10%近くおり、セレール語は、地元多数派言語としてウォロフ語に対抗する力を保持していると言える。

複数言語率も、家庭内や近隣よりも高くなっており、ファティックでは、家庭内や、近隣では同一言語話者の間でのやりとりが中心であるのに対して、市場が、とりわけセレール語やフルフルデ語の話者にとって、他言語の話者と出会い、複数の言語を使い分けることの多い場となっていることを示している。家庭や近隣では自らの言語だけを用いているセレール人やフルベ人も、市場では、セレール語あるいはフルフルデ語の通じる相手とは自らの言語で話すが、そうでない場合はウォロフ語を用いるのである。

市場でフランス語を用いるという人は、家庭内で用いるという人よりもさらに少ない。

#### ④役所で使う言語

市役所、警察、郵便局など、フランス語を使う役人のいる、国や地方の公共機関にでかけるときにフランス語の使用比率が跳ね上がり、フランス語とウォロフ語以外の使用比率が減少するという傾向は、他の6都市と共通している。「不自由なく」話せると答えた人の数を少し上回る4割強の人が役所ではフランス語を用いると答えている。

しかし、ポドールやバケルでは地元の多数派言語であるフルフルデ語やソニンケ語が、役所でもかなり高い割合で使われ続けていたのに対して、ファティックではセレール語は第一言語話者の3分の1に満たない人しか使っていない。

ウォロフ語を使用する人の比率は、市場より低いがそれでも8割を超えている。

役所が、ほぼフランス語とウォロフ語の2言語だけの場となり、かつウォロフ語が圧倒的な優位にあるという状況は、おおむねダカールと共通している。

複数言語率は市場よりさらに高くなる。しかし、これは「国語」間の複数言語使用ではなく、ウォロフ語とフランス語の2言語の選択使用の結果である。

#### ⑤職場の同僚、学校の級友と話すときに使う言語

ファティックでは、職場の同僚や学校の級友との会話で用いられる言語は、セレール語の使用比率がやや高いことを除けば、役所で用いられる言語とは

ば同じ傾向を示している。職場の同僚や学校の級友との会話では、8割以上の方がウォロフ語を用い、4割近い人がフランス語を用いているのである。それぞれ「不自由なく話す」と答えた人の比率とほぼ一致している。

セレール語を用いる人は家庭、近隣、市場より低い比率だが、それでも第一言語話者の6割近い人が用い続けている。

また、フルフルデ語の使用比率は家庭内に次いで高い。

ポドールの場合と同じく、ファティックでも同僚や級友間の複数言語率がもっとも高くなっている。しかし、ポドールではウォロフ語とフルフルデ語の使用比率の合計だけで複数言語率が1.4に近かったのに対して、ファティックではウォロフ語とセレール語の使用比率の合計は1.1に過ぎない。高い複数言語率はフランス語の使用比率の高さによるところが大きい。

ファティックでは、回答者のほぼ4割が、日常的にフランス語を使うことが多いと思われる学生・生徒や公務員・会社員であったことも関係していると思われる。

#### ⑥職場の上司、学校の先生との会話で用いる言語

職場の上司、学校の先生との会話で、ウォロフ語を用いる人の比率がもっとも低くなり、フランス語の使用比率がもっとも高くなるのはほぼ他の6都市の傾向と一致している。

この質問に関しては、回答した150名の6割近くが、日常的にフランス語を使うことが多いと思われる学生・生徒や公務員・会社員であった。フランス語の使用比率が非常に高く、「不自由なく話す」と答えた人の比率も大幅に上回るのはそのためである。

学校の生徒は全員が先生とはフランス語で話すと答え、それ以外の人々では、ウォロフ語とフランス語がほぼ半々であった。

セレール語を使用する人の比率もフルフルデ語を使用する人の比率も最も低い。

複数言語率はこれまででもっとも低かったダカール (1.265)、バケル (1.190) をも下回り、ほぼ1言語に近い。ファティックでは、上司や先生との会話では複数言語の使い分けは存在せず、フランス語あるいはウォロフ語の単一言語使用となるのである。

## 2. ファティックについての中間総括

セレール人が圧倒的多数を占めるファティック県の中心都市ファティックにおいても、ウォロフ化の傾向は顕著に表れている。

少数派言語であるフルフルデ語、マンディンカ語、ジョラ語は、一世代の間に第一言語話者を大幅に減らし、地元の多数派言語であるセレール語もわずかながらウォロフ語によって浸食されている。4割弱という第一言語話者の比率を大幅に超える6割近くの家庭でウォロフ語が使われているということは、ウォロフ化の傾向がさらに進むであろうことを予測させる。

また、民族としてのウォロフ人は2割に満たないにもかかわらず、ウォロフ語はほぼすべての住民に理解され、多数派言語であるセレール語を圧倒して全住民の共通語となっている。

セレール語も全住民の7割以上に理解されるが、「不自由なく話す」人は民族の比率をわずかに上回るだけであり、また、家庭の外では完全にウォロフ語に圧倒されている。セレール語は、ポドールのフルフルデ語のように、ウォロフ語と拮抗して2言語共存の社会を作っているというよりも、圧倒的な優位に立つウォロフ語に少しずつ浸食されながらも、かろうじてセレール人が多数を占める地区内で維持されている、と言った方が実態に近いだろう。

なお、本稿は1996-8(平成8-10)年度文部省科学研究費補助金(国際学術研究：研究代表砂野幸稔、研究題目「セネガルにおけるウォロフ語使用」)によって得られた研究成果の一部である。

#### 【註】

- (1) Direction de la Prévision et de la Statistique, 1988, p.3.
- (2) インターネットのホームページ ([http://www.gazetteer.de/c/c\\_sn.htm](http://www.gazetteer.de/c/c_sn.htm)) 参照。
- (3) Direction de la Prévision et de la Statistique, 1992c p.30
- (4) *ibid.* ファティック地方の報告書では、ジョラ人、ソニンケ人は「その他」に分類されており、数値はあげられていない。なお、この報告書ではマンディンカ人について「ソセ」という名称が使われているが、本稿では6「国語」の名称に従って「マンディンカ」と表記する。また、「バンバラ」と別の分類がたてられているが、これについても6「国語」のうちの「マンディンカ」として分類する。
- (5) *ibid.*
- (6) Direction de la Prévision et de la Statistique, 1992c, p.31. ファティック地方の報告書では、言語については、各民族のそれぞれの言語の話者の比率だけについて、ファティック地方全体の数値とファティック地

方を農村部と都市部にわけた数値を上げているだけである。ファティック地方全体の都市部の数値は、ウォロフ人の比率が5割を超えるゴサス県や4割近いフンジュニユ県の都市部を含めた数値なので、ウォロフ人の比率の相対的に低いファティック都市部に当てはめるには若干問題があるが、別の統計にファティック都市部の民族別の人口構成があげられているので、そこから得られる民族別の人口にファティック地方全体の都市部の比率をかけて各言語の話者数を計算し、その合計を再び百分率になおした。ここでも言語名は註(4)で示した分類と名称を用いている。なお、この報告書では、第二言語の「その他」には第二言語を持たない(一言語しか話さない)人の数も含まれているため、ここでは省いた。

- (7) Direction de la Prévision et de la Statistique, 1992c, pp.17-18.  
 (8) 砂野、1998a、1998b、1999a、1999b、2000a、2000b 参照。以下、ダカール、ジガンショール、サンルイ、ポドール、タンバクンダ、バケルとの比較は、すべてこれら六編の拙論を参照している。  
 (9) 88年の国勢調査結果によれば、6歳から9歳までの初等教育就学率の全国平均34.6%に対して、ファティック地方都市部では男子68.7%、女子59.0%となっている。ちなみにダカールは59.8%、ジガンショール都市部は66.9%である (Direction de la Prévision et de la Statistique, 1992a, 1992b, 1992c, 1993. 参照)。

#### 【参考、引用文献】

DIOUF (Makhtar),

1994, *SÉNÉGAL, LES ETHNIES ET LA NATION*, L'HARMATTAN.

Direction de la Prévision et de la Statistique,

1988, *REPertoire DES VILLAGES, REGION DE FATICK*,  
Ministère de l'Économie, des Finances et du Plan.

1992a, *Resensement général de lapopulation et de l'habitat de 1988, Rapport régional (Résultats définitifs)*, DAKAR,  
Ministère de l'Économie, des Finances et du Plan.

1992b, *Resensement général de la population et de l'habitat de 1988, Rapport régional (Résultats définitifs)*, ZIGUINCHOR,  
Ministère de l'Économie, des Finances et du Plan.

1992c, *Resensement général de la population et de l'habitat de*

1988, *Rapport régional (Résultats définitifs)*, FATICK, Ministère de l'Économie, des Finances et du Plan.

1993, *Resensement général de la population et de l'habitat de 1988, Rapport national (Résultats définitifs)*, Ministère de l'Économie, des Finances et du Plan.

砂野幸稔、

1998a, 「セネガルにおけるウォロフ化の進行と場面による言語使用：Ⅰ. ダカール」、『熊本県立大学文学部紀要』、第4巻第1号、pp.47-68.

1998b, 「セネガルにおけるウォロフ化の進行と場面による言語使用：Ⅱ. ジガンシヨール」、『熊本県立大学文学部紀要』、第4巻第2号、pp.31-55.

1998c, 「多言語社会の文化戦略－西アフリカの小国セネガルの言語風景」、『九州人類学会報』、第25号、pp.17-30.

1999a, 「セネガルにおけるウォロフ化の進行と場面による言語使用：Ⅲ. サンプルイ」、『熊本県立大学文学部紀要』、第5巻第2号、pp.1-22.

1999b, 「セネガルにおけるウォロフ化の進行と場面による言語使用：Ⅳ. ポドール」、『熊本県立大学文学部紀要』、第6巻第1号、pp.17-33.

2000a, 「セネガルにおけるウォロフ化の進行と場面による言語使用：Ⅴ. タンバクンダ」、『熊本県立大学文学部紀要』、第6巻第2号、pp.15-35.

2000b, 「セネガルにおけるウォロフ化の進行と場面による言語使用：Ⅵ. バケル」、『熊本県立大学文学部紀要』、第7巻第1号、pp.83-103.

RODRIGUEZ (Edmond),

1994, <Caractéristiques régionales>, in CHARBIT (Yves) et NDIAYE (Salif), eds, *POPULATION DU SÉNÉGAL*, Direction de la Prévision et de la Statistique / Centre d'Études et de Recherches sur les Populations Africaines et Asiatiques.

WIOLAND (François),

1965, *ENQUÊTE SUR LES LANGUES PARLÉES AU SÉNÉGAL*, Centre de Linguistique Appliquée de Dakar.

WIOLAND (François) et CALVET (Maurice),

---

1967, <L'expansion du wolof au Sénégal>, in *Bulletin de l'IFAN*,  
t.XXIX, n°s. 3-4, pp.604-618.



FICHE DE SYNTHESE A : ENSEMBLE

DATE: 29-31/07/98 LIEU: FATICK-TOTAL No. \_\_\_ ~No. \_\_\_ NOMBRE TOTAL 269

TRANCHES D'AGE	-15	16-25	26-35	36-45	46-55	56-65	66-	TOTAL
HOMME	5	43	8	17	11	5	8	97
FEMME	12	59	36	32	22	7	4	172

PROFESSION	FUNCTIONNAIRE/SALARIE	ETUDIANT	INDEPENDANT	SANS PROFESSION
	19	71	59	120

\*ABRÉVIATION: WLF=WOLOF, PLR=POULAR, SRR=SÉRÈRE, MDG=MANDINGUE, DLA=DIOLA, SNK=SONINKÉ,  
CRL=CRÉOLE, MKN=MANKAGNE, MJK=MANDJAK, AR=ARAB, FR=FRANÇAIS

	WLF H/F	PLR H/F	SRR H/F	MDG H/F	DLA H/F	SNK H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	AUTRE* H/F	AR H/F	FR H/F	**AUTRE*
ETHNIE	51	49	150	6	10						3			
	20   31	17   32	53   97	2   4	5   5						0   3			
P-L	103	27	131	2	5						1			
(>25)	(45)	(11)	(60)	(1)	(1)	( )	( )	( )	( )	( )	(1)	( )	( )	
P-L-PÈRE	57	49	143	4	10	2					4			
(>25)	(25)	(23)	(63)	(1)	(5)	(0)	( )	( )	( )	( )	(2)	( )	( )	
P-L-MÈRE	55	46	146	8	6						8			
(>25)	(25)	(21)	(63)	(3)	(2)	( )	( )	( )	( )	( )	(5)	( )	( )	
BIEN	225	30	154	9	7	1					2	3	111	
	86   139												62   49	
ASSEZ-BIEN	19	6	12		2						1		35	
	5   14												12   23	
PASSABLEMENT	24	31	25	4	5						3	3	44	
	5   19												13   31	
LIRE	12	1	16										11	168
	6   6	0   1	8   8										7   4	81   87
ECRIRE	11	1	13										5	164
	5   6	0   1	6   7										5   0	80   84
FAMILLE	152	22	114	1	6						1		10	0
QUARTIER	209	15	108		1						1		11	0
MARCHE	242	15	96	2	3						1		6	2
SERV-PUB	213	6	41		1								115	7
CMRD/CLG	186	14	64	1	6							2	80	43
SUPERIEUR	50	3	11									2	100	119

INTRODUCTION DES LANGUES NATIONALES DANS L'ENSEIGNEMENT

NIVEAU	PRIMAIRE	SECONDAIRE	UNIVERSITAIRE
OUI	264	253	218
NON	4		
?	1		

LANGUE D'UNIFICATION NATIONALE

LANGUE	WLF	PLR	SRR	MDG	DLA	SNK	AUTRE
OUI	240	148	16	68	3	4	1
NON	25						
?	4						

## FICHE DE SYNTHÈSE A : ENSEMBLE

DATE:29/02/98 LIEU: FATICK-DAREL No. 1 ~No. 37 NOMBRE TOTAL 37

TRANCHES D' AGE	-15	16-25	26-35	36-45	46-55	56-65	66-	TOTAL
HOMME		7	2	3	2	1		15
FEMME	1	5	4	9	3			22

PROFESSION	FONCTIONNAIRE/SALARIE	ETUDIANT	INDEPENDANT	SANS PROFESSION
	3	3	12	19

\*ABRÉVIATION: WLF=WOLOF, PLR=POULAR, SRR=SÉRÈRE, MDG=MANDINGUE, DLA=DIOLA, SNK=SONINKÉ,  
CRL=CRÉOLE, MKN=MANKAGNE, MJK=MANDJAK, AR=ARAB, FR=FRANÇAIS

	WLF H/F	PLR H/F	SRR H/F	MDG H/F	DLA H/F	SNK H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	AUTRE* H/F	AR H/F	FR H/F	**AUTRE*
ETHNIE	0	9	23	0	4	0					1		0	*マンカニヤ1
	0   0	4   5	9   14	0   0	2   2	0   0					0   1		0   0	
P-L	7	8	21	0	0	0					1		0	*マンカニヤ1
(>25)	(3)	(3)	(6)	(0)	(0)	(0)	( )	( )	( )	( )	(1)	( )	(0)	
P-L-PÈRE	0	9	23	0	4	0					1		0	*マンカニヤ1
(>25)	(0)	(4)	(5)	(0)	(3)	(0)	( )	( )	( )	( )	(1)	( )	(0)	
P-L-MÈRE	1	9	26	0	1	0					0		0	
(>25)	(0)	(3)	(10)	(0)	(0)	(0)	( )	( )	( )	( )	(0)	( )	(0)	
BIEN	28	9	24	1	1	1					1		13	*マンカニヤ1
	12   16												9   4	
ASSEZ-BIEN	7	1	4	0	1	0					0		0	
	2   5												0   0	
PASSABLEMENT	2	4	3	1	2	0					2		8	*レオ#2
	1   1												3   5	
LIRE	3	1	5										18	
	2   1	0   1	1   4										11   7	
ECRIRE	3	1	5										18	
	2   1	0   1	1   4										11   7	SR ↓
FAMILLE	17	7	21		1								2	0
QUARTIER	33	5	22		1								2	0
MARCHE	35	4	21		0								3	0
SERV-PUB	29	0	6		0								13	1
CMRD/CLG	28	4	12		2								9	5
SUPERIEUR	11	2	6		0								8	12

## INTRODUCTION DES LANGUES NATIONALES DANS L'ENSEIGNEMENT

NIVEAU	PRIMAIRE	SECONDAIRE	UNIVERSITAIRE
OUI	37	36	29
NON	0		
?	0		

## LANGUE D'UNIFICATION NATIONALE

LANGUE	WLF	PLR	SRR	MDG	DLA	SNK	AUTRE
OUI	31	16	5	10			
NON	5						
?	1						

FICHE DE SYNTHÈSE A : ENSEMBLE

DATE: 31/07/98 LIEU: FATICK-LOGANDEME No. 1 ~No. 42 NOMBRE TOTAL 42

TRANCHES D'AGE	-15	16-25	26-35	36-45	46-55	56-65	66-	TOTAL
HOMME	0	6	0	2	0	0	2	10
FEMME	3	8	11	5	2	2	1	32

PROFESSION	FONCTIONNAIRE/SALARIE	ETUDIANT	INDEPENDANT	SANS PROFESSION
	2	10	5	25

\*ABRÉVIATION: WLF=WOLOF, PLR=POULAR, SRR=SÉRÈRE, MDG=MANDINGUE, DLA=DIOLA, SNK=SONINKÉ,  
CRL=CRÉOLE, MKN=MANKAGNE, MJK=MANDJAK, AR=ARAB, FR=FRANÇAIS

	WLF	PLR	SRR	MDG	DLA	SNK				AUTRE*	AR	FR	**"AUTRE"
	H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	H/F
ETHNIE	4	9	20	3	4					2			#HASANYA2
	1 3	1 8	5 15	1 2	2 2					0 2			
P-L	14	4	19	2	3								
(>25)	(6)	(3)	(6)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
P-L-PÈRE	3	10	18	3	4	1				3			#HASANYA3
(>25)	(2)	(5)	(6)	(1)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	
P-L-MÈRE	3	7	23	3	4					2			#HASANYA2
(>25)	(2)	(5)	(6)	(1)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(0)	(0)	
BIEN	35	5	22	3	4								18
	9 26												8 10
ASSEZ-BIEN	1	2	3							1			6
	0 1												2 4
PASSABLEMENT	6	2	2										4
	1 5												0 4
LIRE	2		1										24
	0 2		0 1										9 15
ECRIRE	1		1										24
	0 1		0 1										9 15
FAMILLE	22	4	2		4								1 0
QUARTIER	39	4	0		0								0 0
MARCHE	39	4	1		1								0 0
SERV-PUB	33	2	0		0								15 1
CMRD/CLG	27	6	0		1								9 8
SUPERIEUR	2	0	0		0								10 29

INTRODUCTION DES LANGUES NATIONALES DANS L'ENSEIGNEMENT

NIVEAU	PRIMAIRE	SECONDAIRE	UNIVERSITAIRE
OUI	41	40	38
NON	1		
?	0		

LANGUE D'UNIFICATION NATIONALE

LANGUE	WLF	PLR	SRR	MDG	DLA	SNK	AUTRE
OUI	41	28	0	10	1	2	
NON	1						
?	0						

## FICHE DE SYNTHÈSE A : ENSEMBLE

DATE: 31/07/98 LIEU: FATICK-NDIAYE-NDIAYE No. 1 ~No. 70 NOMBRE TOTAL 70

TRANCHES D'AGE

	15	16-25	26-35	36-45	46-55	56-65	66-	TOTAL
HOMME	3	13	1	3	5	2	2	29
FEMME	3	18	7	5	6	0	2	41

PROFESSION

FONCTIONNAIRE/SALARIE	ETUDIANT	INDEPENDANT	SANS PROFESSION
7	25	12	26

\*ABRÉVIATION: WLF=WOLOF, PLR=POULAR, SRR=SÉRÈRE, MDG=MANDINGUE, DLA=DIOLA, SNK=SONINKÉ,

CRL=CRÉOLE, MKN=MANKAGNE, MJK=MANDJAK, AR=ARAB, FR=FRANÇAIS

	WLF H/F	PLR H/F	SRR H/F	MDG H/F	DLA H/F	SNK H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	AUTRE* H/F	AR H/F	FR H/F	**"AUTRE"
ETHNIE	2	3	65											
	1   1	2   1	26   39											
P-L	3	2	65											
(>25)	(1)	(0)	(36)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
P-L-PÈRE	0	3	67											
(>25)	(0)	(1)	(36)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
P-L-MÈRE	4	5	61											
(>25)	(3)	(2)	(32)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
BIEN	45	2	68		0							1	30	
	23   22												16   14	
ASSEZ-BIEN	10	0	0		0							0	14	
	3   7												6   8	
PASSABLEMENT	14	3	0		1							0	11	
	2   12												5   6	
LIRE	1	0	7									1	52	
	0   1		4   3									1   0	27   25	
ECRIRE	1	0	5									1	50	
	0   1		3   2									1   0	26   24	SR ↓
FAMILLE	2	3	65										0	0
QUARTIER	20	1	64										3	0
MARCHE	52	2	52										1	0
SERV-PUB	51	1	23										33	0
CMRD/CLG	38	2	41										23	12
SUPERIEUR	3	0	2										33	35

## INTRODUCTION DES LANGUES NATIONALES DANS L'ENSEIGNEMENT

NIVEAU	PRIMAIRE	SECONDAIRE	UNIVERSITAIRE
OUI	68	65	62
NON	1		
?	1		

## LANGUE D'UNIFICATION NATIONALE

LANGUE	WLF	PLR	SRR	MDG	DLA	SNK	AUTRE
OUI	60	31	1	27		1	
NON	10						
?	0						

FICHE DE SYNTHESE A : ENSEMBLE

DATE: 30/07/98 LIEU: FATICK-NDOUK No. 1 ~No. 58 NOMBRE TOTAL 58

TRANCHES D'AGE

	-15	16-25	26-35	36-45	46-55	56-65	66-	TOTAL
HOMME	2	10	1	8	3	1	1	26
FEMME	1	13	7	2	6	3	0	32

PROFESSION

FUNCTIONNAIRE/SALARIE	ETUDIANT	INDEPENDANT	SANS PROFESSION
4	14	19	21

\*ABRÉVIATION: WLF=WOLOF, PLR=POULAR, SRR=SÉRÈRE, MDG=MANDINGUE, DLA=DIOLA, SNK=SONINKÉ,  
CRL=CRÉOLE, MKN=MANKAGNE, MJK=MANDJAK, AR=ARAB, FR=FRANÇAIS

	WLF H/F	PLR H/F	SRR H/F	MDG H/F	DLA H/F	SNK H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	AUTRE* H/F	AR H/F	FR H/F	**AUTRE"
ETHNIE	32	6	15	3	2									
	15   17	2   4	7   8	1   2	1   1									
P-L	49	2	5		2									
(>25)	(22)	(2)	(2)	( )	(0)	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
P-L-PÈRE	37	5	12	1	2	1								
(>25)	(19)	(2)	(5)	(0)	(0)	(0)	( )	( )	( )	( )	( )	( )	( )	
P-L-MÈRE	32	9	10	5	1					1				*MANDJAKI
(>25)	(15)	(4)	(5)	(2)	(0)	( )	( )	( )	( )	(0)	( )	( )	( )	
BIEN	57	3	9	4	2						1		26	*CREOLE1
	25   32												19   7	
ASSEZ-BIEN	0	1	3										4	
	0   0												2   2	
PASSABLEMENT	1	7	8		1					1	2		7	*HASANVAI
	1   0												1   6	
LIRE	1											3	32	
	1   0										0   3	21   11		
ECRIRE													32	
													21   11	SR ↓
FAMILLE	55	1	5	0	1					1			4	0
QUARTIER	58	1	6	0	0					1			5	0
MARCHE	57	3	8	2	2					1			2	0
SERV-PUB	48	1	2	0	1					0			27	2
CMRD/CLG	47	1	4	0	2					0			20	8
SUPERIEUR	13	0	0	0	0					0			25	25

INTRODUCTION DES LANGUES NATIONALES DANS L'ENSEIGNEMENT

NIVEAU	PRIMAIRE	SECONDAIRE	UNIVERSITAIRE
OUI	56	54	50
NON	2		
?	0		

LANGUE D'UNIFICATION NATIONALE

LANGUE	WLF	PLR	SRR	MDG	DLA	SNK	AUTRE
OUI	55	43	3	5	2	1	1
NON	2						
?	1						

## FICHE DE SYNTHÈSE A : ENSEMBLE

DATE: 30/07/98 LIEU: FATICK-PEULGAH No. 1 ~No. 62 NOMBRE TOTAL 62

TRANCHES D'ÂGE

	-15	16-25	26-35	36-45	46-55	56-65	66-	TOTAL
HOMME	0	7	4	1	1	1	3	17
FEMME	4	15	7	11	5	2	1	45

PROFESSION

FONCTIONNAIRE/SALARIE	ETUDIANT	INDEPENDANT	SANS PROFESSION
3	19	11	29

\*ABRÉVIATION: WLF=WOLOF, PLR=POULAR, SRR=SÉRÈRE, MDG=MANDINGUE, DLA=DIOLA, SNK=SONINKÉ,

CRL=CRÉOLE, MKN=MANKAGNE, MJK=MANDJAK, AR=ARAB, FR=FRANÇAIS

	WLF H/F	PLR H/F	SRR H/F	MDG H/F	DLA H/F	SNK H/F	H/F	H/F	H/F	H/F	AUTRE* H/F	AR H/F	FR H/F	**AUTRE*
ETHNIE	13	22	27											
	3   10	8   14	6   21											
P-L	30	11	21								0			
(>25)	(13)	(3)	(10)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
P-L-PÈRE	17	22	23								0			
(>25)	(4)	(11)	(11)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
P-L-MÈRE	15	16	26								5			*HASANYAS
(>25)	(5)	(7)	(10)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(0)	(0)	(0)	
BIEN	60	11	31	1	0							2	24	
	17   43												10   14	
ASSEZ-BIEN	1	2	2	0	1							0	11	
	0   1												2   9	
PASSABLEMENT	1	15	12	3	1							1	14	
	0   1												4   10	
LIRE	6	0	3									7	42	
	3   3		3   0									6   1	13   29	
ECRIRE	6	0	2									4	40	
	3   3		2   0									4   0	13   27	SR ↓
FAMILLE	56	7	21	1	0							0	3	0
QUARTIER	59	4	16	0	0							0	1	0
MARCHE	59	2	14	0	0							0	0	2
SERV-PUB	52	2	10	0	0							0	27	3
CMRD/CLG	46	1	7	1	1							2	19	10
SUPERIEUR	21	1	3	0	0							2	24	18

## INTRODUCTION DES LANGUES NATIONALES DANS L'ENSEIGNEMENT

NIVEAU	PRIMAIRE	SECONDAIRE	UNIVERSITAIRE
OUI	62	58	55
NON	0		
?	0		

## LANGUE D'UNIFICATION NATIONALE

LANGUE	WLF	PLR	SRR	MDG	DLA	SNK	AUTRE
OUI	53	30	7	16			
NON	7						
?	2						